



地域連携室便り

愛媛県立中央病院
地域医療連携室

No.39 (2023年8月)

直通TEL 089-987-6270 (前方連携)
089-947-1165 (後方連携)
FAX 089-987-6271

盛夏の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度 地域連携室便り No.39 8月 を刊行いたしました。気軽に読んでいただけるようにと考えておりますが、皆様方からのご意見をいただければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひお知らせください。この機会にぜひメール登録をよろしくお願いたします。

今回の内容

- ① かかりつけ医紹介カウンター始動 ♥ 富増真知子
- ② 新センター長ご挨拶 大谷広美
- ③ 診療科紹介 (小児科) 中野直子
- ④ 第127回医療連携懇話会を終えて(後半) 井上武
- ⑤ ソウシンコラム 玉木みずね
- ⑥ 地域医療連携室からのお知らせ～登録お申し込み方法について～

かかりつけ医紹介カウンター始動 ♥ 看護部 看護長 富増 真知子

日頃から患者さんの逆紹介にご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

今年度4月より当院ではかかりつけ医紹介カウンターが運用開始となり、現時点で50名程度の患者さんにご利用いただいております。かかりつけ医紹介カウンターではかかりつけ医をお持ちでない患者さんに対して医療機関の情報提供を行い、患者さんやご家族と共にかかりつけ医を決定しております。患者さんが希望する医療機関へご連絡させていただき、患者さんの情報提供と共に、ご依頼があれば事前に診療情報提供書のFAX送付も行っております。また診療情報提供書は、地域医療機関へ郵送または患者さんに持参していただいております。

地域完結型医療推進のため、今後も引き続きご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。



②新センター長ご挨拶

消化器病センター長 大谷 広美



この度、消化器病センター長を拝命した 大谷広美（おおたにひろみ）と申します。第1回東京オリンピックが開催された、昭和39年徳島県生まれです。富岡西高校を経て平成元年に愛媛大学を卒業し、愛媛大学医学部外科学第一講座に入局しました。大学で1年間研修後、平成2年に2年目研修医として当院に第1回目の赴任をしております。このころ“ご指導”していただいた同僚の看護師さんが歴代の看護部長を務めているという時代背景です。

学生時代より肝胆膵外科に興味があり、平成3年より3年間、国立がんセンター中央病院（築地）で肝胆膵外科レジデントとして修業し、平成6年より千葉西総合病院でさらに3年間研鑽を積み重ね、肝胆膵外科のみならず広く消化器外科、救急医療にも従事しました。平成9年より大学院生として帰学し、医学博士取得後も愛媛大学附属病院勤務を継続した後、平成18年より当院に赴任しております。平成22年度上半期は南宇和病院の支援、平成24年から2年間今治病院勤務の後、平成26年より消化器外科主任部長として中央病院に勤務し、消化器外科の現場責任者としての責務を果たしました。同時にクリニカルパス委員長として、求められる委員会の改修に着手し、現在は手術センター長として、コロナ対策をはじめとして、手術室に関連する諸問題の意見調整役を果たすべく努力しています。また、消化器病センター長拝命と同時にQM室長にも任命され、来るべき病院機能評価の準備を進めているところです。

[<リンク先>愛媛県立中央病院 地域連携室便り 2020年8月号](#)

以前、この地域連携室便りの中で『**内科医と外科医の境界線**』という記事を書かせていただきました。昭和の消化器内科医と昭和の消化器外科医はカーテンでブラインドにしても、影絵で容易に区別がつくほど明らかに仕事内容は異なっていましたが、もともと開腹手術と比べて圧倒的に低侵襲な内視鏡にESD等近代兵器で攻撃力を増した内科医と、もともと攻撃力は十分であった開腹手術に腹腔鏡が導入され、数か所の穴をあけるだけで手術が可能となった外科医が、日々努力して医療の理想を求めていくと、ほぼ同じデバイスに行きつき、デバイスを口から挿入するのが内科医で、腹壁から直接挿入するのが外科医というぐらいの差しかなくなっているのではとの内容です。その後Da Vinci SPという単孔式のロボット支援手術機器が発売され、まさに2チャンネルスコープの進化系と呼ぶにふさわしい形の機器となっており、近い将来本当に境界線はなくなるのではないかと思わせる状況です。

卒後3年目から国立がんセンター中央病院に研修に行ったのは、“東京に住んでいる人はたすかるのに愛媛に住んでいる人はたすからないということがあってはならない”という信念のもとでした。低侵襲手術についても地域格差があつてはならず、2009年、単孔式腹腔鏡手術を愛媛県で初めて導入しました。今年に入り四国初（おそらく）のロボット支援腓頭十二指腸切除術を導入し、信念は現在も進行形です。またこの年齢になり、現在は後進の教育にも熱が入ってきました。

最近専ら働き方改革への対応が話題となり、我々世代の昭和の根性論はもはや通じない状況です。消化器内科、消化器外科とも緊急症例が多く、働き方改革と両立するのは大変になってきていますが、今後とも当院消化器病センターは、内科外科一丸となり、消化器疾患治療について全国のleading hospitalとしての役割を果たしていく必要があります、その遂行のため微力ながらも貢献できればと思っています。



消化器外科はコチラから

Click!

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

③診療科紹介（小児科）

小児科 主任部長 中野 直子

当院小児科は、愛媛県で基幹病院としては最大かつ重要な役割を担っており、以下の5つの目標を掲げて診療を提供しています。

一つ目は、医療連携の推進と専門性の確保です。

入院が必要な患者様や専門的な治療が必要と思われる患者様を多く紹介いただき、紹介していただいた先生方の満足できる診断、治療、結果を得るよう診療にあたりたいと考えています。退院後は、積極的に逆紹介することで病診連携を図り、当院では、ますます高い専門性のある医療を提供していきたいと考えています。また、コロナ禍で実施できていなかった、開業医の先生方との紹介症例の検討会と勉強会を開催し、情報交換ができる場を持ちたいと思います。

二つ目は、救急の適正化です。

昨今の小児救急体制の問題は当科でも同様に抱えています。マンパワーが制限される中で、医療の安全や質を担保した救急を構築していこうと考えています。その上で、高度・専門医療に関して愛媛の小児医療の最後の砦となるべく、他院・他科の小児チームと連携して、役割を十分に機能できるよう努力していきます。

三つ目は、療育の推進です。

当院はNICUを併設し、救急医療からもさまざまな療育を必要とするに至る子どもたちがいます。そういった子どもたちの数は年々増加の一途を辿っています。この子どもたちをいかにうまく療育につなげていくか、その仕組みを構築していこうと考えています。

四つ目は、子どもの虐待予防です。

子ども虐待は年々増えており、社会問題になっています。救急病院である当院は、被虐待児に関わる可能性が十分あります。早期に他施設や多職種機関と連携を取り合いながら、子どもたちやそのご家族をサポートし、子ども虐待予防に努めていきたいと考えています。

五つ目は、医学生や研修医教育です。

医学生は大学病院では研修できない疾患や実際の救急現場や病院診療を見学して、将来の展望をさらに具体的に描くことができるようになる経験を提供します。また、当院で採用されている優秀な研修医が、小児科だけではなくそれぞれの専門分野を選択したのちでも、小児の患者に対する最低必要で重要な違いを習得できて活かせるように指導を行い、小児にも優しい医療従事者の育成に努めます。

昨年度の実績は、小児科の入院患者数は727人であり、前年度よりも13%増加しています。疾患別では、呼吸器・感染症が最多であり、その次が痙攣や神経疾患で、その次はCOVID-19関連の入院でした。血液・腫瘍関連の治療も定数例継続しております。さらに当科では四国では唯一の小児リウマチ専門医が従事しているため、膠原病や炎症性腸疾患といった有名だけど極めて稀な疾患が愛媛県内はもちろんのこと県外からも紹介され集積するようになっていきます。

救急に関しては、ヘリ搬送も含め救急搬送された小児患者は外科疾患も併せて408人でそのうち小児科疾患は331人、三次救急患者は38人でした。三次救急は高度な先進医療が求められ、県内の重症小児患者の対応に当科だけではなく他科と協力連携し、総力あげて努めています。

上記の目標を達成するために、小児科各領域の専門医（循環器、神経、血液・腫瘍、免疫、アレルギー、内分泌・代謝）により構成される現在9名の常勤医で専門性の高い最先端の医療を提供しています。



小児科はコチラから  Click!

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

④ 第127回医療連携懇話会を終えて(後半)

画像センター長/地域医療連携室 副室長 井上 武

「県立中央病院をまるごと ご紹介します」をテーマに第127回医療連携懇話会を6月14日(水)19時からANAクラウンプラザホテル松山にて開催いたしました。ご多忙の中、院外参加81名の方にご参加賜り、院内参加者62名と合わせて計143名の賑やかな懇話会となりました。院外参加者は52名の医師と薬剤師、看護師、ソーシャルワーカーなど29名の医療関係者でした。

愛媛県公営企業局管理者の挨拶に引きつづいて、県立中央病院29診療科の主任部長が前もって作成したスライドを用いて診療科紹介を行いました。診療科も多く、1診療科2分半と短めの持ち時間でしたが、コンパクトに練りこんで作った内容のスライドで、各診療科の診療内容、特徴、アピールポイントがまとめられており、患者様をご紹介いただく際の参考になるかと考えます。一部動画もあり楽しんでいただけたのではないかと思います。

各科の診療科紹介の後、全員が隣りの会場に移動して、意見交換会が開かれました。立食パーティー形式での意見交換会でお互いの顔を合わせ、アルコールも入り、しばらく会えなかった皆様と積もる話に時間を忘れるような楽しい会合になりました。

これまで多くの患者様をご紹介いただき、皆様のおかげでわが愛媛県立中央病院は多くの患者様の診療にあたることができいております。重ねて御礼申し上げます。これからも引き続き当院をよろしくお願い申し上げます。

今回後半の15診療科のスライドを、ご紹介したいと思います。今後ご紹介の参考になればと考えております。

8月号掲載診療科			
1	乳腺・内分泌外科	8	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
2	放射線科	9	眼科
3	脳神経内科	10	歯科
4	脳神経外科	11	形成外科・顎顔面外科
5	循環器内科	12	皮膚科
6	心臓血管外科	13	漢方内科
7	整形外科	14	総合診療科

左表以外の
診療科はコチラ!

7月号



脳神経内科

脳神経外科

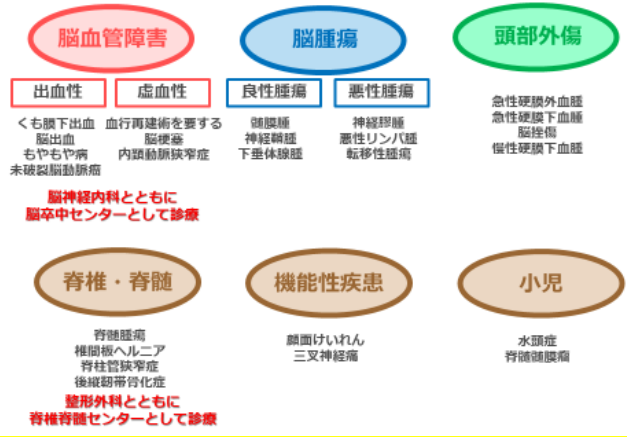
診療方針

日本神経学会認定神経内科専門医数（2023年3月）
愛媛県：40名（四国4県：137名） 広島県：136名

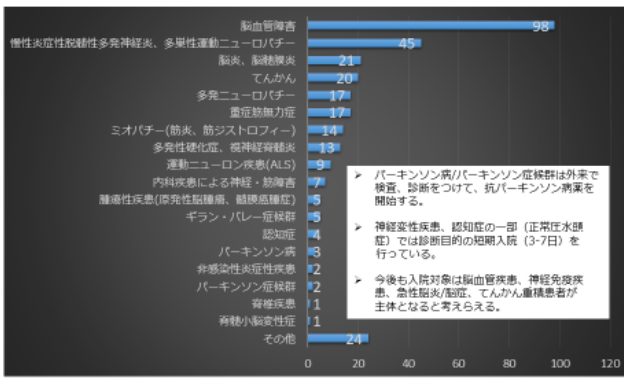
四国は脳神経内科の分野では僻地

- 当科の診療方針として、脳、脊髄、末梢神経、筋肉のいずれの分野にも偏ることなく幅広く診療する。
- 特に治療に重点をおいた「治せる脳神経内科」を掲げて診療にあたっている。

脳神経外科 診療分野



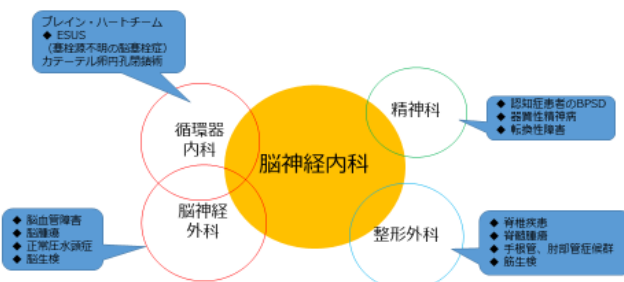
入院診療実績(2022年)



治療方法



関連する診療科とのコラボレーション



脳神経外科 スタッフ



循環器内科

心臓血管外科

循環器内科の3本の矢



第一の矢 救急医療

24時間体制で救命措置の必要な患者さんを受け入れます。



第二の矢 ハートチーム

愛媛県中のエキスパートが協働し、質の高いチーム医療を実践します。



第三の矢 高度医療

先進的な高度循環器医療を県民の皆様にご提供します。

診療科紹介 心臓血管外科

【診療方針】

成人心臓および大血管（胸部から抹消血管）すべての外科的疾患に対応する

【特徴】

- ・緊急対応は24時間、365日
- ・開胸・開腹での治療のみならず、低侵襲治療にも注力
- ・ハートチームを形成し他職種とともに治療を行う
<TA-TAVI, MitraClip etc.>

臨床で力を入れている7つのこと

- 1.虚血性心疾患（CHIPインターベンション）
- 2.心房細動などのカテーテルアブレーション
- 3.ICD、CRTなどのデバイス植え込み、抜去
- 4.弁膜症、SHDインターベンション
- 5.脳梗塞再発予防のためのカテーテル治療
- 6.LEADに対するカテーテル治療
- 7.重症心不全・心原性ショック症例の救命

心臓血管外科で扱う疾患

- ・虚血性心疾患
- ・心臓弁膜症
- ・その他の心臓疾患（腫瘍、血栓等）
- ・大動脈疾患（胸部、腹部）
- ・末梢血管（動脈、静脈）



2022年手術総数 363例

県中 循環器内科をよろしくお願ひ致します。



スタッフ紹介



石戸谷 浩



米沢 数馬



高橋 研



稲荷 真愛

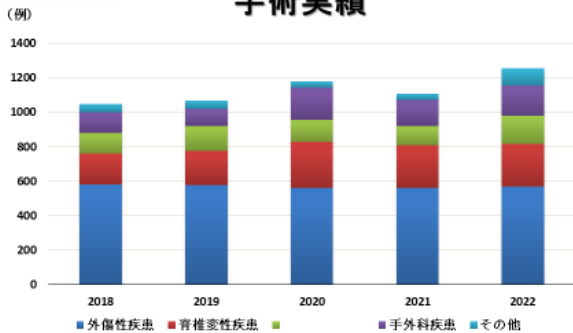


深見 隼二

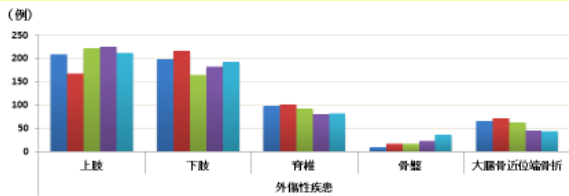
整形外科

整形外科

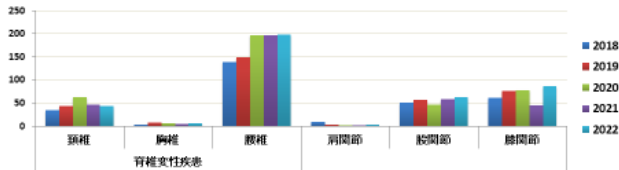
手術実績



昨年度も新型コロナウイルスによる診療制限の影響はありましたが、手術件数は約1200例を超えており、その半数を外傷性疾患が占めています。



その内訳は上肢、下肢に次いで、脊椎や骨盤などの重度外傷症例が多く、大腿骨近位端骨折は減少傾向です。



脊椎変性疾患では腰椎が、関節変性疾患では股関節や膝関節が多く、前年度より増加しました。



整形外科スタッフ一同、専門性の高い医療を提供できるよう頑張っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

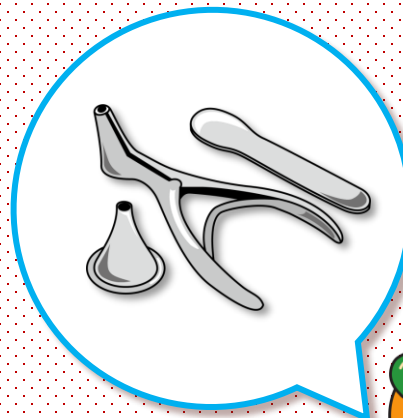
耳鼻咽喉科・頭頸部外科

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

耳鼻咽喉、頭頸部領域の地域基幹病院として、耳鼻咽喉の機能外科はもとより重症、救命救急疾患に対しても対応し、患者さんや近隣の医療機関の信頼を得ることができるような医療を目指しています。
頭頸部がん診療では手術治療、化学療法、放射線治療を適宜組み合わせて、治療の充実に努めています。

- 耳科手術
鼓室形成術、鼓膜形成術、顔面神経減荷術、中耳手術など
- 鼻科手術
内視鏡下鼻副鼻腔手術(ナビゲーション手術を含む)、鼻中隔矯正術、鼻副鼻腔腫瘍摘出術など
- 口腔、咽頭手術
口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術、嚥舌摘出術など
- 喉頭・気管手術
顕微鏡下喉頭微細手術、緊急気管切開手術など
- 頭部疾患(悪性以外)
頭部腫瘍切開排膿手術、耳下腺・甲状腺良性腫瘍手術など
- 悪性腫瘍手術
鼻副鼻腔、舌、口腔、頬粘膜、咽頭(上、中、下)、喉頭悪性腫瘍の手術、頭部廓清手術など

 本多 伸光 主任部長 1992年 愛媛大学医学部卒 ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会耳鼻咽喉科専門医 ・日本耳鼻咽喉科専門医指導医、代議員、検査指導医 ・日本呼吸学会呼吸器専門医 ・日本喉頭学会喉頭神経痛相談医 ・厚生労働省臨床研修指導医	 高木大樹 (たかぎ だいき) 2004年 愛媛大学医学部卒 耳鼻咽喉科専門医、専門研修指導医 専門：聴覚、鼻副鼻腔手術	 小川日出夫 (おがわ ひでお) 2007年 愛媛大学医学部卒 耳鼻咽喉科専門医、専門研修指導医 専門：耳科手術
 豊井孝史 (とよい ひろふみ) 2008年 愛媛大学医学部卒 耳鼻咽喉科専門医、専門研修指導医 専門：音声・嚥下、頸腺腫瘍	 木村拓也 (きむら たくや) 2014年 愛媛大学医学部卒 耳鼻咽喉科専門医、専門研修指導医 専門：耳科手術、鼻科手術	 富地祥多 (みちじ しょうた) 2016年 愛媛大学医学部卒 耳鼻咽喉科専門医 専門：鼻科手術、鼻鏡手術



形成外科・顎顔面外科

形成外科

先天性、後天性の形態異常や機能異常を
形態的、機能的に修復、再建する外科

- ・ 新鮮外傷、新鮮熱傷
- ・ 顔面骨骨折および顔面部組織損傷
- ・ 唇裂・口蓋裂
- ・ 手、足の先天異常、外傷
- ・ その他の先天異常
- ・ 母斑、血管腫、良性腫瘍
- ・ 悪性腫瘍およびそれに関連する再建
- ・ 瘢痕、瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイド
- ・ 褥瘡、難治性潰瘍
- ・ 美容外科
- ・ その他

疾患別入院患者数

疾患名	2019	2020	2021	2022
新鮮熱傷	11	8	6	8
顔面骨骨折	45	43	27	35
顔面部組織損傷	3	2	3	3
唇裂口蓋裂	25	36	24	26
手足の先天性異常	12	10	6	4
手足の外傷	49	35	18	16
その他の先天性異常	53	47	12	15
母斑・血管腫・皮膚良性腫瘍	111	105	62	65
悪性腫瘍およびその再建	18	23	17	13
瘢痕・瘢痕拘縮	18	19	6	12
褥瘡・難治性潰瘍	19	21	21	34
その他	19	22	31	15
合計	383	371	233	246

手術数（手術室）

区分	2019	2020	2021	2022
外傷	181	125	78	99
先天異常	95	109	86	67
腫瘍	304	277	176	180
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	36	28	20	18
難治性潰瘍	44	25	36	59
炎症・変性疾患	16	14	5	10
美容	0	0	0	0
その他	27	13	15	10
レーザー	170	141	186	126
合計	873	732	602	569

形成外科 診療スタッフ

中川 浩志（主任部長）
 1991年 長崎大学
 形成外科学会専門医 中国四国地区世話人 皮膚腫瘍外科分野専門医 小児形成外科分野専門医 再建・マイクロサージャリー分野専門医
 熱帯医学会専門医 中国四国地方会評議員
 創傷外科学会専門医
 褥瘡学会第2期認定医 評議員
 日本フレックア・足指医学会 中国四国地方会評議員

石野 憲太郎（部長）
 2006年 愛媛大学
 形成外科学会専門医

岡田 将善（医長）
 2013年 自治医科大学
 整形外科学会専門医

土居 未歩（副医長）
 2017年 愛媛大学



4人体制で診療を行っております
 よろしくお願ひいたします

皮膚科

皮膚科

- 皮膚に関連するすべての疾患を扱います。
- 診断困難例、重症・難治例、全身症状を伴う症例、手術を要する症例などを中心に紹介を頂いています。
- 他科領域と重複する疾患も多く、必要症例は他科と連携を取り診療を行っています。
- 下腿潰瘍、糖尿病性足潰瘍、壊疽などの創傷に対して多数の治療経験があります。
- 広範囲・重症熱傷（3次救急）
 救急科・形成外科と合同でチームを作り治療に当たっています。

皮膚科

■ 外来診療

- ・ 乾燥生物学的製剤使用承認施設に認定されています
 生物学的製剤：乾癬 35例、アトピー性皮膚炎 42例、慢性蕁麻疹 14例
 JAK阻害剤：アトピー性皮膚炎 3例、円形脱毛症 8例
- ・ 紫外線治療 施行件数 1047回/年

■ 手術

- 悪性腫瘍 23例、良性腫瘍 72例

■ 入院診療

- 薬疹・中毒疹 12例、難治性潰瘍 10例、水疱症 10例
 細菌感染症（蜂巣炎、膿瘍など）9例
 広範囲熱傷 8例、手術・悪性腫瘍 5例
 円形脱毛症（ステロイドパルス）5例、その他 10例

（症例数：2022年度実績）

皮膚科スタッフ



漢方内科

総合診療科

東洋医学/漢方内科

- ・本物の生薬を調合した煎じ薬も処方できます(保険適応)。
- ・エキス製剤(顆粒)では効果を感じにくい症例にも効果を上げています。



こんな患者さんを対象としています

- 基本的にはいかなる健康問題にも対応します！
- 未診断の患者さん(腹痛、胸痛、不明熱など)
- 複合問題を抱えた患者さん(複数疾患、多臓器疾患、老年症候群など)
- こころの問題を抱え、身体症状を有する患者さん
- 予防医学的アプローチを必要とする患者さん

東洋医学の適応

適している病態

身体の不調や体力低下
体質改善
冷え性、月経不順
心身症、不定愁訴、神経症
現代医薬品の副作用の軽減
など

コロナ後遺症の症状の緩和・軽減を漢方薬にて行っています。
ご相談ください。

適していない病態

西洋医学の効果が安全
かつ確実に期待できる疾患
(腫瘍など)
緊急性の高い疾患
ただちに手術を要する疾患

2022年診療実績

入院患者	130人
呼吸器疾患	12
神経疾患	6
消化器疾患	20
腎・泌尿器疾患	13
アレルギー・膠原病	17
感染症	16
循環器疾患	6
糖尿病内分泌代謝疾患	7
血液疾患	2
整形外科・皮膚科	19
耳鼻咽喉科、精神科疾患	
その他	12

地域医療連携

516人の患者さんをご紹介いただきました。

どうもありがとうございました

Take home message

- ・どこに紹介したらいいのかわからない患者さんは、まず当科にご紹介ください。
- ・医院継承されるご子息ご息女のトレーニングの場として最適です。当科で2~3年働いてみませんか。



⑤「ソウシンコラム その9」

副院長 玉木 みずね

患者さんの緊張を解く

例えば、HbA1c値が悪化しているので医師が患者さんに強めの指導をする、というような場面はよくあると思います。私も何十年もそうしてきました。しかしそれでうまくいくことは案外少ない。そういう指導は患者さんに緊張と委縮を強いるだけなのかもしれない。そもそも医師が考えるよりずっと患者さんは緊張していて、それを解くことの方が大切なかもしれない。だんだんそう思うようになりました。そのように気をつけると、患者さんとの関係が良くなって診療がスムーズになったと感じます。目に見える数字が良くなるのではないけれど、生活や心身の安定化が得られる印象があります。

そして、困難を抱えた患者さんであるほど、診察室のなかで緊張せず安らげるという事は、なににも増して治療的なものかもしれません。

⑥地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど）はメール配信を推奨させていただきますと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。

ご意見
ご希望

<件名> メール登録 (医療機関名) <本文> 医療機関住所、電話番号
E-Mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

メールのご登録で...

医療連携懇話会の
動画配信が半年間
ご覧いただけます！



動画配信
3つの
ポイント！



①
好きな
時間に



②
繰り返し
再生！



③
3密
回避



※ 懇話会動画視聴のみご希望の方もご登録できます。ぜひお申し込みください。

お問い合わせ

：愛媛県立中央病院 地域医療連携室 <担当>箱岡・三好

：TEL : 089-947-1111(代) FAX : 089-987-6271 E-mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

次回の医療連携懇話会のお知らせ

第130回医療連携懇話会

周産期における最近の話題

～産まれる前も産まれたあとも、時代に負けないサポートを目指して～

日時 令和 5年 9月13日(水) 19:00～20:00

座長 産婦人科 主任部長 阿部恵美子

演者 『産婦人科 最近の話題』

産婦人科 部長 池田 朋子

『新生児領域における昨今の治療や検査、育児環境について』

新生児内科 部長 井上 博晴

『コロナ禍の母乳育児支援』

産科病棟助産師 勝村 しおり

『リトルベビーハンドブックを使用した退院支援』

新生児集中ケア認定看護師 谷 春香

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

お申込・詳細はコチラから Click!



媛さくらネット

地域医療連携ネットワークサービス 媛さくらネット

<現在閲覧できる項目>

閲覧
無料

- ・処方・注射・検体検査・病名・退院時サマリ
- ・画像(放射線、エコー、生理検査) (4月1日以降の情報)
- ・循環器動画・放射線画像診断レポート

(2021年11月1日以降の情報) (2022年3月1日以降の情報)

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

お申込・詳細はコチラから Click!

地域連携室便り

次回9月号(No.40)は9月中旬頃刊行の
予定です。お楽しみに！

メール登録のご案内

地域医療連携室では各種ご案内やお知らせのメール配信を推奨させていただいております。

登録していただくと…

**限定公開！
医療連携懇話会動画を
ご覧いただけます！**



さらに

**医療連携懇話会のご案内、
地域連携室便りの更新が届きます！**



**ホームページのタイムリーな
更新情報等もお知らせ予定です！**



動画視聴のみ希望される医療機関関係者の方のご登録も受け付けております

【お申し込み方法】

①メールからのお申し込み

申し込み先メールアドレスへ、以下を記載し送信してください。

<件名> メール登録（医療機関名）

<本文> 医療機関住所・電話番号

※動画視聴のみの希望の場合は「動画のみ」と記載をお願いします。

申し込み先メールアドレス : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

②この用紙でのお申し込み

以下にご記入をお願いいたします。

<医療機関名> _____

<医療機関住所> _____

<電話番号> _____

※動画視聴のみ希望の場合はチェックをお願いします。 動画のみ希望

<メールアドレス>

登録するメールアドレスのご記入、またはチェックをお願いします。

_____ @ _____

今回の医療連携懇話会に申し込んだメールアドレスを登録します。